

百人一首を覚えよう！ その6 (51～60)

61. いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に にほひぬるかな
(いにしへの ならのみやこの やへざくら けふこのへに にほひぬるかな)

(伊勢大輔 (いせのだいふ) 女流歌人) 「詞花集」

62. 夜をこめて 鳥の空音は はかるとも よに逢阪の 関はゆるさじ
(よをこめて とりのそらねは はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ)

(清少納言 (せいしょうなごん) 「枕草子 (まくらのそうし)」の作者 「後拾遺集」)

63. 今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを 人づてならで いふよしもがな
(いまはただ おもひたえなむ とばかりを ひとづてならで いふよしもがな)

(左京大夫道雅 (さきょうのだいふみちまさ) (992～1054)) 「後拾遺集」

64. 朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに あらはれわたる 瀬々の網代木
(あさぼらけ うちのかはざり たえだえに あらはれわたる せぜのあじろぎ)

(権中納言定頼 (ごんちゅうなごんさだより) (995～1045) 「千載集」)

65. 恨みわび ほさぬ袖だに あるものを 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
(うらみわび ほさぬそでだに あるものを こひにくちなむ なこそをしけれ)

(相模 (さがみ) 平安中期の歌人) 「後拾遺集」

66. もろともに あはれと思へ 山桜 花よりほかに 知る人もなし
(もろともに あはれとおもへ やまざくら はなよりほかに しるひともなし)

(前大僧正行尊 (さきのだいそうじょうぎょうそん) (1055～1135) 「金葉集」)

67. 春の夜の 夢ばかりなる 手枕に かひなく立たむ 名こそ惜しけれ
(はるのよの ゆめばかりなる たまくらに かひなくたたむ なこそをしけれ)

(周防内侍 (すおうのないし) 女流歌人) 「千載集」

68. 心にも あらでうき世に ながらへば 恋しかるべき 夜半の月かな
(こころにも あらでうきよに ながらへば こひしかるべき よはのつきかな)

(三条院 (さんじょういん) (976～1017) 第67代天皇 「後拾遺集」)

69. 嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 龍田の川の 錦なりけり
(あらしふく みむろのやまの もみぢばは たつたのかわの にしきなりけり)

(能因法師 (のういんほうし) (988～?) 生涯漂泊の旅人) 「後拾遺集」

70. さびしさに 宿をたち出でて ながむれば いくとも同じ 秋の夕暮
(さびしさに やどをたちいでて ながむれば いくともおなじ あきのゆふぐれ)

(良ぜん法師 (りょうぜんほうし) 謎の法師) 「後拾遺集」